

新エネルギーの活用 省エネルギーに向けた取り組み

地球温暖化問題が深刻化する中、原子力発電所の運転停止等によりエネルギー問題が日本全体に大きな影響を与えています。

今や、エネルギー問題・地球環境問題は、国際間だけではなく、各自治体・地域が自らの問題として取り組むべき重要な課題となっています。

安平町では平成20年度から温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制に取り組むとともに、平成23年度に「A B I R A 新エネルギーアクションプロジェクト」を設置し、エネルギー問題の解決に向けた調査研究、町のエネルギー施策の指針作成に向けた検討等を行っています。町内で進む民間の取り組み、町の取り組みをご紹介します。

株式会社ムラコシ精工 安平町太陽光発電所グリーンパワー早来稼働

早来富岡の臨空工業団地で建設工事が進められていた太陽光発電所「グリーンパワー早来」が完成、2月に運転を開始しました。

出力規模は1.0メガワット、年間予想発電量が141万6千キロワット時で、一般家庭約300世帯が1年間に使用する電力量を発電することができます。

発電状況はインターネット経由で遠隔地管理を行い、発電状況は東京都内のムラコシ精工本社や新宿ショールーム等から確認することができます。



ソフトバンク苫東安平ソーラーパーク建設

遠浅地区では、苫東安平ソーラーパーク株式会社による日本最大級となる太陽光発電所の建設が進められています。

敷地面積は約166ヘクタールで、札幌ドームが約30個分の面積。年間予想発電量は約1億801万4千キロワット時で、完成後は一般家庭約3万世帯（安平町の約7.5倍相当）が1年間に使用する電力量を発電することができます。

昨年10月に起工式が行われ、平成27年11月末の運転開始を目指して工事が進められます。



EV（電気自動車）公用車運用開始

安平町フェイスブック公式ページや新聞記事等でも紹介された電気自動車の公用車が、2月から本格運用を開始。去年3月の時点では道内の市町村でわずか7台だった電気自動車公用車ですが、安平町では今回3台を導入。

省エネ、地球温暖化対策に資する環境負荷の少ない移動手段として活躍するほか、災害などの停電時にはEV車両のバッテリーから災害対策の拠点となる庁舎等に電力を供給可能な給電システムも整備し、環境対策と防災機能の強化への活用が見込まれます。